

創部100周年記念誌

1917-2017

補訂版

小澤 瀧 名誉師範と昭和初期の関西学院弓道部



関西学院大学体育会弓道部

小澤 瀧 名誉師範と昭和初期の関学弓道部

(創部100年記念誌 補訂版)

2019(令和元)年10月16日、小澤 瀧 名誉師範〔おざわ ひろし 1872(明治5)年8月9日生、全日本弓道連盟範士9段〕の曾孫である小澤 陽子様が関西学院大学を訪れ、弓道部道場の他、ランバス記念礼拝堂等を見学されました。陽子様の祖父は小澤先生の長男・猛様〔1903(明治36)年11月9日生〕。父はその長男・清様〔1932(昭和7)年8月22日生〕です。

当日、お持ちいただいた小澤先生の写真、資料等をお借りすることができましたので、古塚緩弓友会名誉会長〔1933(昭和8)年卒、高商弓道部師範 全日本弓道連盟範士8段〕のご遺族から提供いただいた資料等も併せ、その当時の弓道部について改めて纏めてみました。



左から 岩佐コーチ、西村監督、小澤陽子様、澤田弓友会会長
平山主将 於:関西学院弓道場

《目次》

1. 小澤 瀧 名誉師範

- ・小澤家 家系図 3
- ・小澤 瀧 名誉師範の略歴 4
- ・小澤 瀧 名誉師範50歳～90歳代の写真 5

2. 当時の弓道部と小澤兄弟の活躍

- ・日本学生選手権大会(第1回、第2回) 9

3. 提供いただいた資料、著書

- ・ご家族の写真 15
- ・小澤 瀧 名誉師範 発信のハガキ 1963(昭和38)年4月29日消印 19
- ・著書「新弓道」表紙と序章 20

小澤 瀧名誉師範と昭和初期の関学弓道部

(創部100年記念誌 補訂版)

1. 小澤 瀧名誉師範

家系図、「日本之弓道」の資料については、小澤 瀧名誉師範のご遺族から提供いただきました。

- ・小澤家 家系図 必要部分のみ抜粋… 別途資料 1 - ①
- ・小澤 瀧名誉師範の略歴… 別途資料 1 - ②
- ・小澤 瀧名誉師範の写真 写真のみ抜粋… 別途資料 1 - ③

「日本之弓道」〔第2巻第5号 1961(昭和36)年5月 発行 日本之弓道社〕の中から
50歳～90歳代の各年代の写真を抜粋

- ・**長男 猛** 1903(明治36)年11月9日生、1922(大正11)年旧制中学部卒
(たかし) 1927(昭和2)年旧制文学部(英文科)卒
- ・**二男 陽** 1909(明治42)年11月3日生、1932(昭和7)年高商卒
(あきら) 1928(昭和3)年7月4日、小澤兄弟、小澤三男ら9名は弓道部初の満州遠征を行う
(1929(昭和4)年、関西学院 原田の森から上ヶ原に移転)
1931(昭和6)年7月、小澤兄弟、古塚緩(昭和8年卒 高商)ら14名は台湾遠征を行う
1934(昭和9)年、天覧試合に出場
- ・**三男 三男** 1911(明治44)年1月1日生、1932(昭和7)年高商卒
(みつお) 1931(昭和6)年6月、第1回日本学生弓道選手権大会で小澤兄弟、古塚緩らが活躍

2. 当時の弓道部と小澤兄弟の活躍

1928(昭和3)年11月28日、関西学生連盟戦で優勝。この年に原田の森での部活動は終わるが、原田の森時代の優勝回数は、弓道部に及ぶクラブはないと言われた。戦前の関学弓道部は関東と対等に戦えた数少ないクラブで、関西の雄として、第2期黄金時代と言っても過言ではなかった。

特に、小澤 陽は関学弓道部が生んだ最高の名手で、その射は豪壮かつ華麗であった。

1934(昭和9)年には天覧試合に出場。関西は勿論、全日本屈指の射手と評されたが、残念ながら戦時中に病気で亡くなられた。

- ・**日本学生選手権大会要覧** 資料は古塚緩弓友会名誉会長のご遺族から提供いただきました。
 - ・第1回 日本学生選手権大会 必要部分のみ抜粋… 別添資料 2 - ①
 - ・第2回 日本学生選手権大会 必要部分のみ抜粋… 別添資料 2 - ②

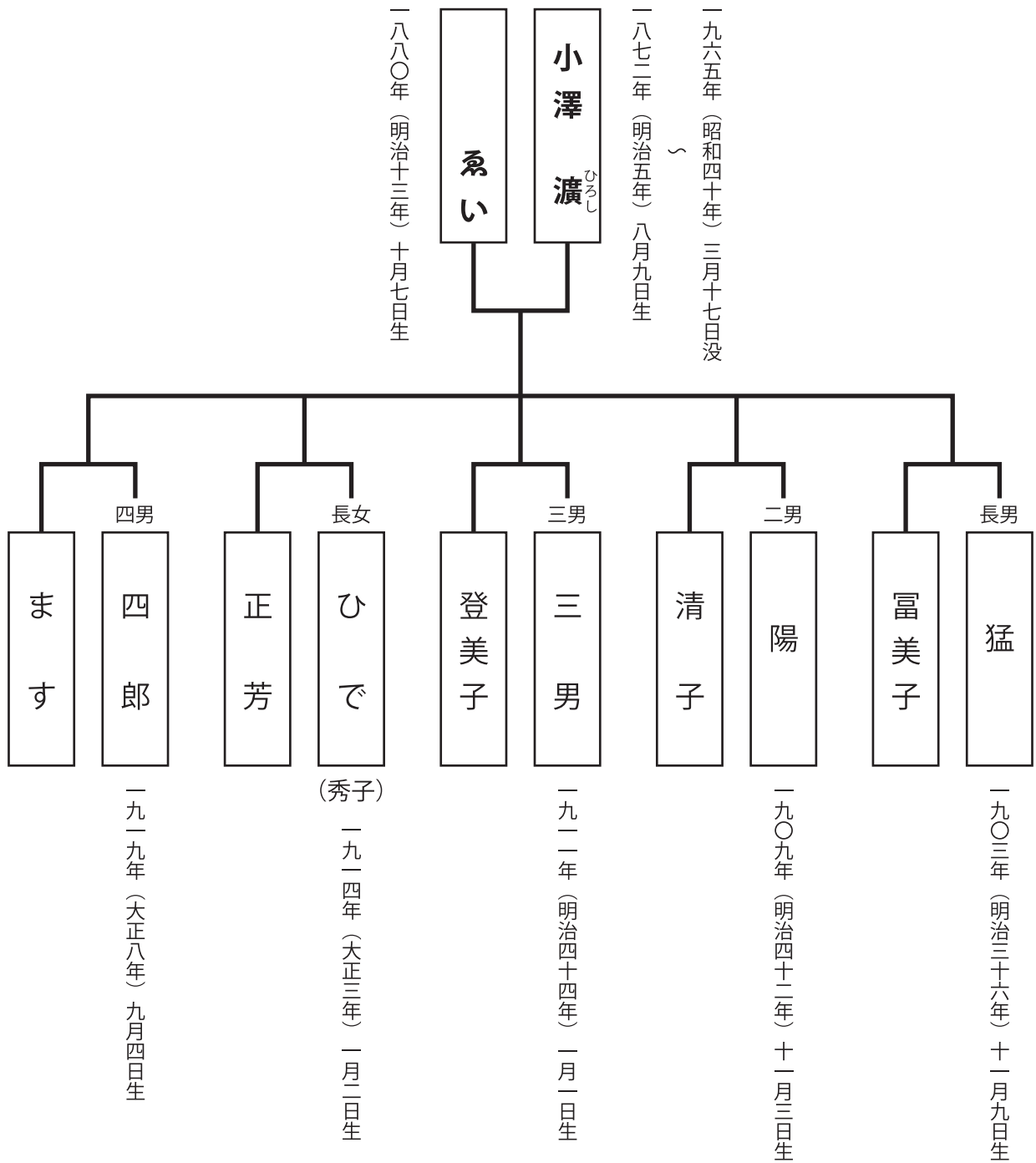
3. 提供いただいた資料、著書

写真、資料等は小澤 瀧名誉師範のご遺族から提供いただきました。

- ・ご家族の写真など 撮影日時、場所が特定できていないものが多い… 別添資料 3 - ①
- ・小澤名誉師範(92歳)発信のハガキ 1963(昭和38)年4月29日消印
静岡県安倍郡大川村から孫の清様宛に送られたハガキ… 別添資料 3 - ②
- ・「新弓道」1934(昭和9)年に大日本武徳会が射法統一の必要性を認め、小澤先生が弓道要則としてまとめられた… 別途資料 3 - ③

小澤家 家系図

資料 1 - ①



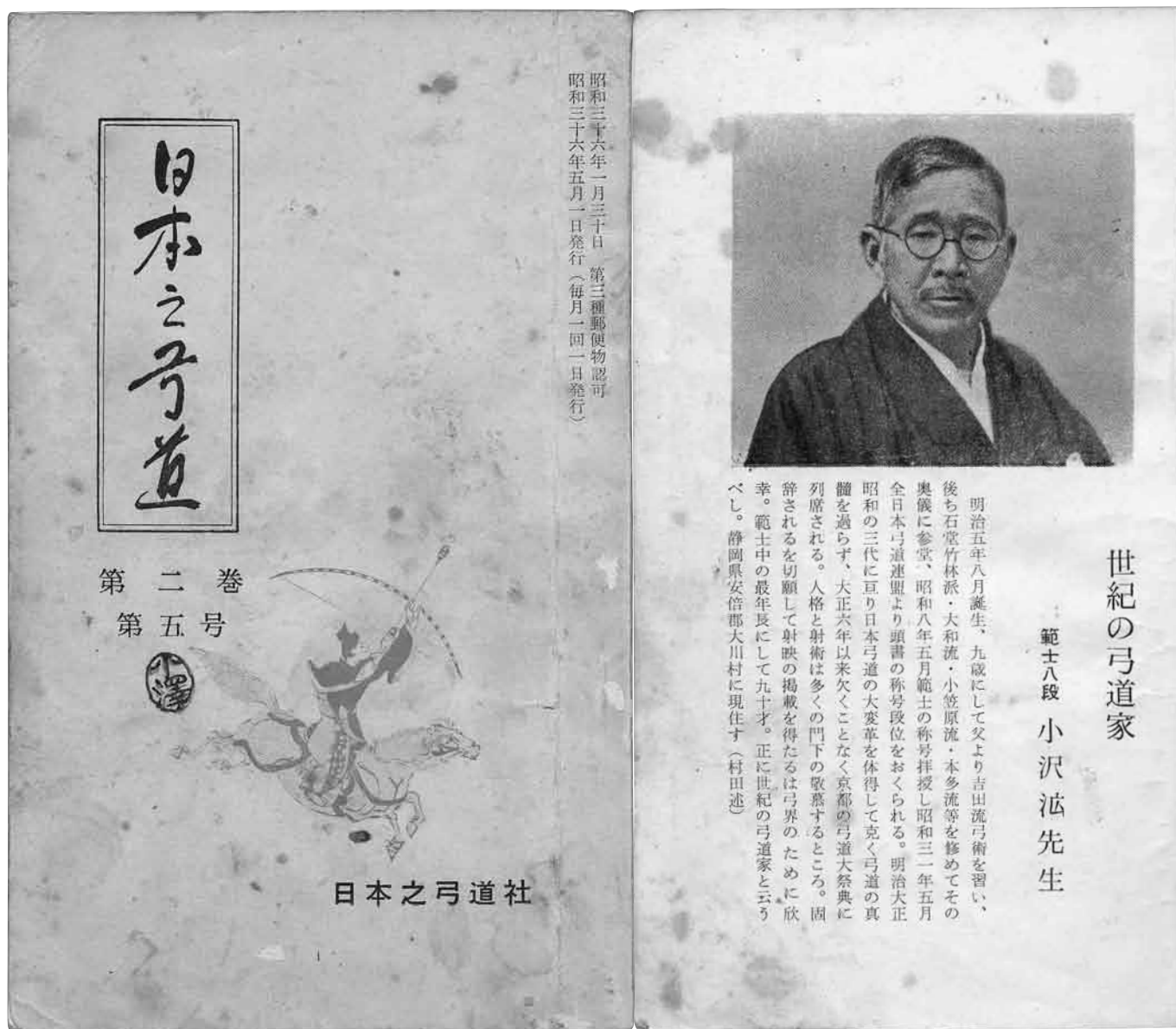
1872年(明治 5)	8月9日	静岡県麻機北清水川生まれ(幼名 直次郎)
1896年(明治29)	3月	東洋学院卒業
1901年(明治34)	12月	日本体育会体操学校高等科卒業
1903年(明治36)	4月	福島県立相馬中学教師
1906年(明治39)	4月	明治学院普通部教師
1908年(明治41)	4月	桃山学院中学校教師
1912年(大正 元)	10月	岡内 木(おかうち こだち)範士に入門
1917年(大正 6)	4月	関西学院高商教授兼事務長 関西学院弓道部、剣道部、柔道部師範
1924年(大正13)	5月	大日本武徳会弓道教士
1925年(大正14)	5月	摂政宮(昭和天皇) 台覧演武
1926年(大正15)	3月	大日本武徳会兵庫支部名誉教士、姫路高等学校弓道講師
1927年(昭和 2)	7月	武経射学正宗 同指迷集 発刊
1930年(昭和 5)	4月29日	日本学生弓道連盟が設立 初代関西支部長に就任 神戸高等商船学校(現 神戸大学海事科学部)弓道師範
1933年(昭和 8)	5月	大日本武徳会弓道範士、大谷大学弓道師範 京都帝国大学(現 京都大学)弓道師範
1936年(昭和11)	3月	浪速高等学校(現 大阪大学)弓道師範
	6月	和歌山高商(現 和歌山大学)弓道師範
1938年(昭和13)	4月	聖心女学院弓道師範
1939年(昭和14)	4月	神戸第一中学校弓道師範
1940年(昭和15)	5月	大阪帝国大学(現 大阪大学)弓道師範
1941年(昭和16)	5月	甲南高等学校(現 甲南大学)弓道師範
1946年(昭和21)	5月	静岡県阿部郡大川村日向に移住
1956年(昭和31)	5月	全日本弓道連盟範士八段
1956年(昭和31)	8月	関西学院大学弓道部名誉師範(85歳)
1963年(昭和38)	5月	全日本弓道連盟範士九段
1965年(昭和40)	3月17日	静岡県大川村日向で逝去(94歳)

企業などでは、日本生命、三井物産、三井倉庫、川西航空機、日本石油、大阪ガス、住友伸銅所、大丸、大日通運、阪急百貨店、大阪府警

学校では、桃山学院、甲南女子大学、灘中学、神港中学、独逸協会中学で指導

- 著書として、
- ・武経射学正宗・射学指迷集訳解合本・全(昭和2年7月) 廣道館
 - ・武経射学正宗射学指迷集及同訳解(昭和5年3月) 大日本弓道会
 - ・弓道の話 附射法図解(昭和5年11月) 神津弓道会(松島 赴 共著)
 - ・射知要法解説、射計(昭和13年3月) 雄山閣 弓道講座収蔵
 - ・武経射学正宗講義(昭和13年11月・昭和14年1月) 雄山閣 弓道講座収蔵

「日本之弓道」【1961<昭和36年5月発行>】より



世紀の弓道家

範士八段 小沢 泷 先生

明治五年八月誕生、九歳にして父より吉田流弓術を習い、後ち石堂竹林派・大和流・小笠原流・本多流等を修めてその奥儀に参堂、昭和八年五月範士の称号拝授し昭和三十一年五月全日本弓道連盟より頭書の称号段位をおくられる。明治大正昭和の三代に亘り日本弓道の大変革を体得して克く弓道の真髓を過らず、大正六年以来欠くことなく京都の弓道大祭典に列席される。人格と射術は多くの門下の敬慕するところ。固辞されるを切願して射映の掲載を得たるは弓界のために欣幸。範士中の最年長にして九十才。正に世紀の弓道家と云うべし。静岡県安倍郡大川村に現在す(村田述)

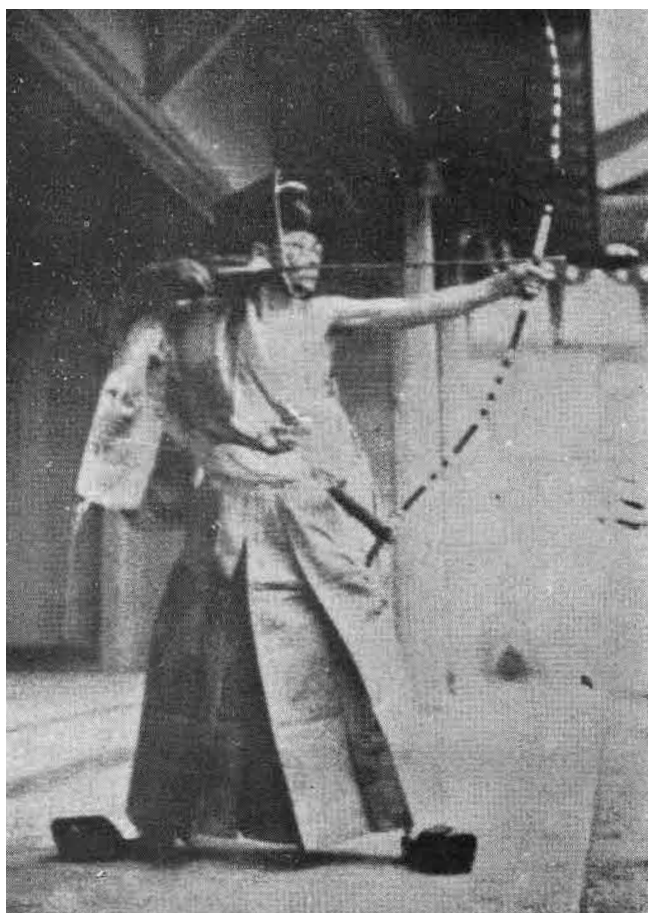
明治五年八月誕生、九歳にして父より吉田流弓術を習い、後ち石堂竹林派・大和流・小笠原流・本多流等を修めてその奥儀に参堂、昭和八年五月範士の称号拝授し昭和三十一年五月全日本弓道連盟より頭書の称号段位をおくられる。明治大正昭和の三代に亘り日本弓道の大変革を体得して克く弓道の真髓を過らず、大正六年以来欠くことなく京都の弓道大祭典に列席される。人格と射術は多くの門下の敬慕するところ。固辞されるを切願して射映の掲載を得たるは弓界のために欣幸。範士中の最年長にして九十歳。正に世紀の弓道家と云うべし。静岡県安倍郡大川村に現在す(村田述)



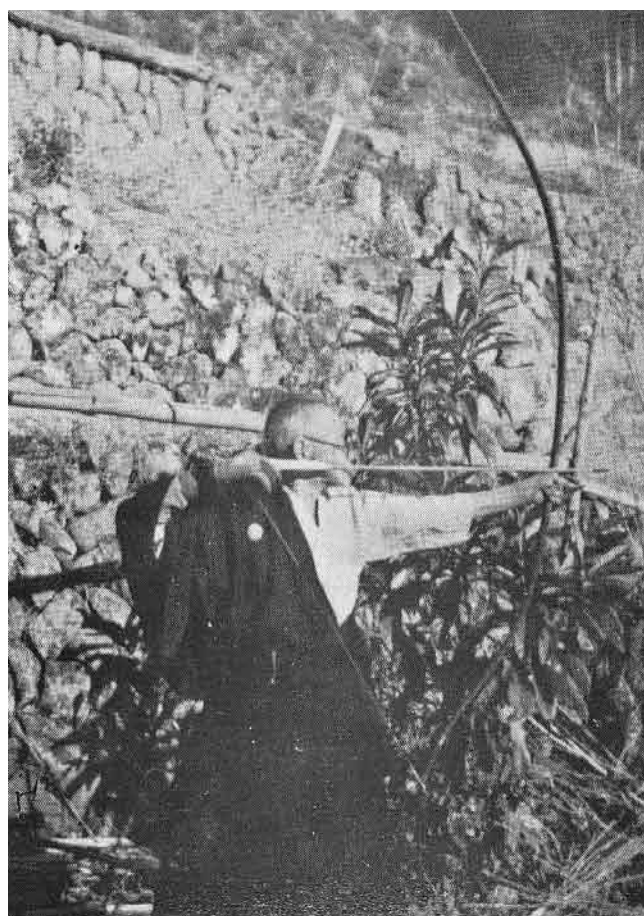
50歳



60歳



70歳



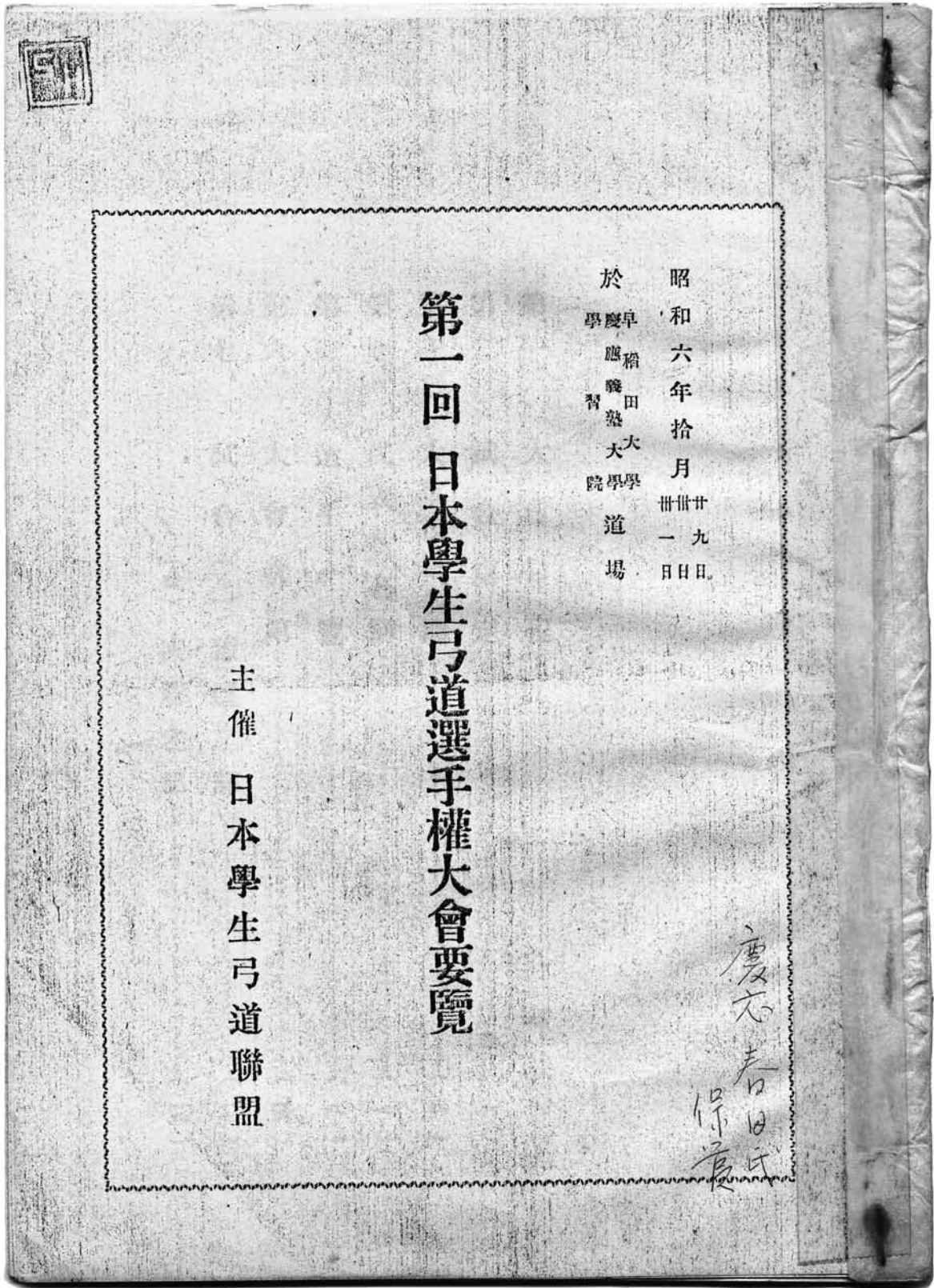
80歳



兵庫県弓道連盟主催長寿祝賀射会記念 (91歳)
神戸市宮王子弓道場にて古式礼射

1962(昭和37)年8月26日

第1回日本学生選手権大会



第一回 日本學生弓道選手權大會要覽

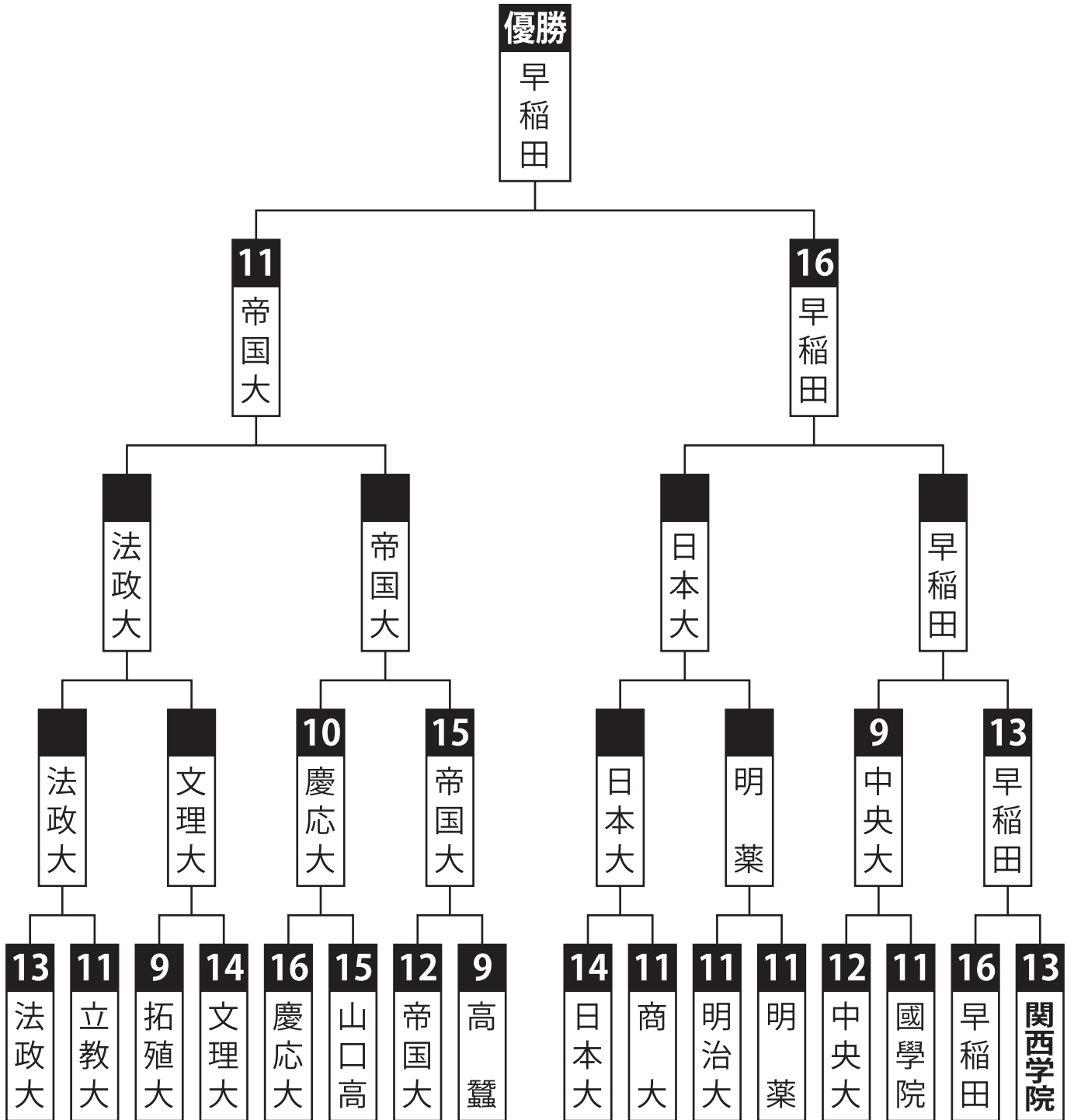
於
早稲田大學習道場
 昭
 和
 六
 年
 拾
 月
 廿
 九
 日

主
 催
 日
 本
 學
 生
 弓
 道
 聯
 盟

慶
 志
 春
 日
 氏
 保
 景

当時の弓道部と小澤兄弟の活躍

第1回日本学生選手権大会〈決勝の部〉



第1回日本学生選手権大会〈説明資料〉

・大会日程 昭和6年6月29日～31日

第1日 代表者会議

第2日 第1次予選 於 早稲田大学道場、慶應義塾大学道場

第3日 開会式

試合 第2次予選ヨリ 決勝マデ 於 学習院道場

閉会式 文部大臣杯授与

・大会役員名簿

審判顧問 小澤 瀧

・出場校代表者氏名 関西学院…小澤 陽 他37校

- ・選手一覧 関西学院…小澤 陽、小澤 三男、衣川 祥二(昭和7年卒 高商)、
釘宮 忠生(昭和7年卒 文専)、笹倉 忠良(詳細不明)、古塚 緩、
後藤 武三(昭和7年卒 高商)

・試合結果 予選の部 予選通過校 16校

慶應義塾大15中、山口高商12中、日本大11中、**関西学院11中**、
明治大15中、東京帝大12中、中央大14中、国学院大15中、
東京高爾13中、拓殖大10中、立教大11中、東京商大12中、
法政大12中、明治薬専10中、早稲田大15中、東京文理大12中

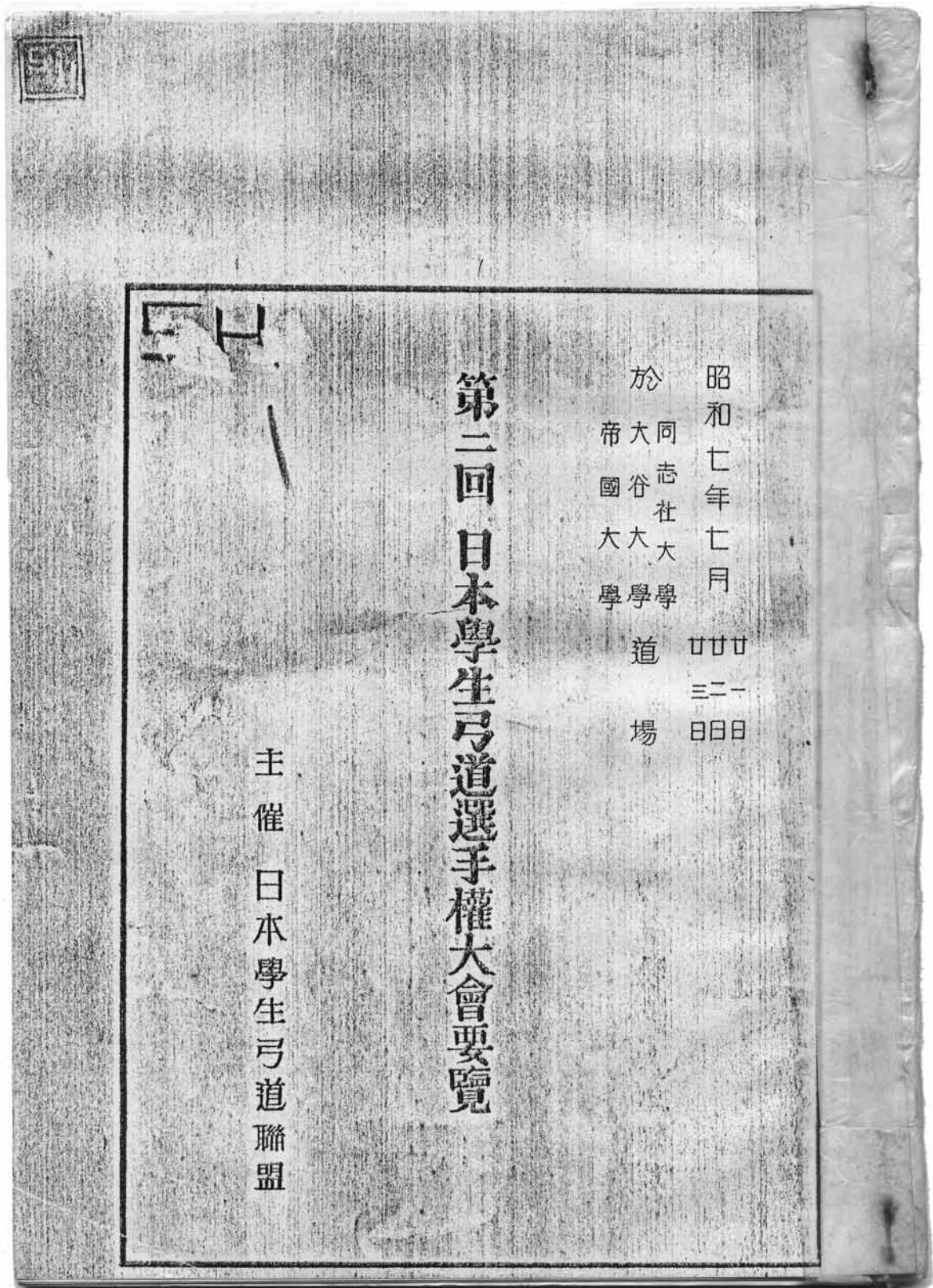
決勝の部

1回戦 早稲田大学 16中 - 13中 **関西学院** 1回戦で敗退

決勝戦 早稲田大学 16中 - 11中 東京帝大 早稲田大学が優勝

※試合結果等：公式記録ではありません。

第2回日本学生選手権大会



第2回日本学生弓道選手権大会要覽

昭和七年七月

二二
三二
日日

於

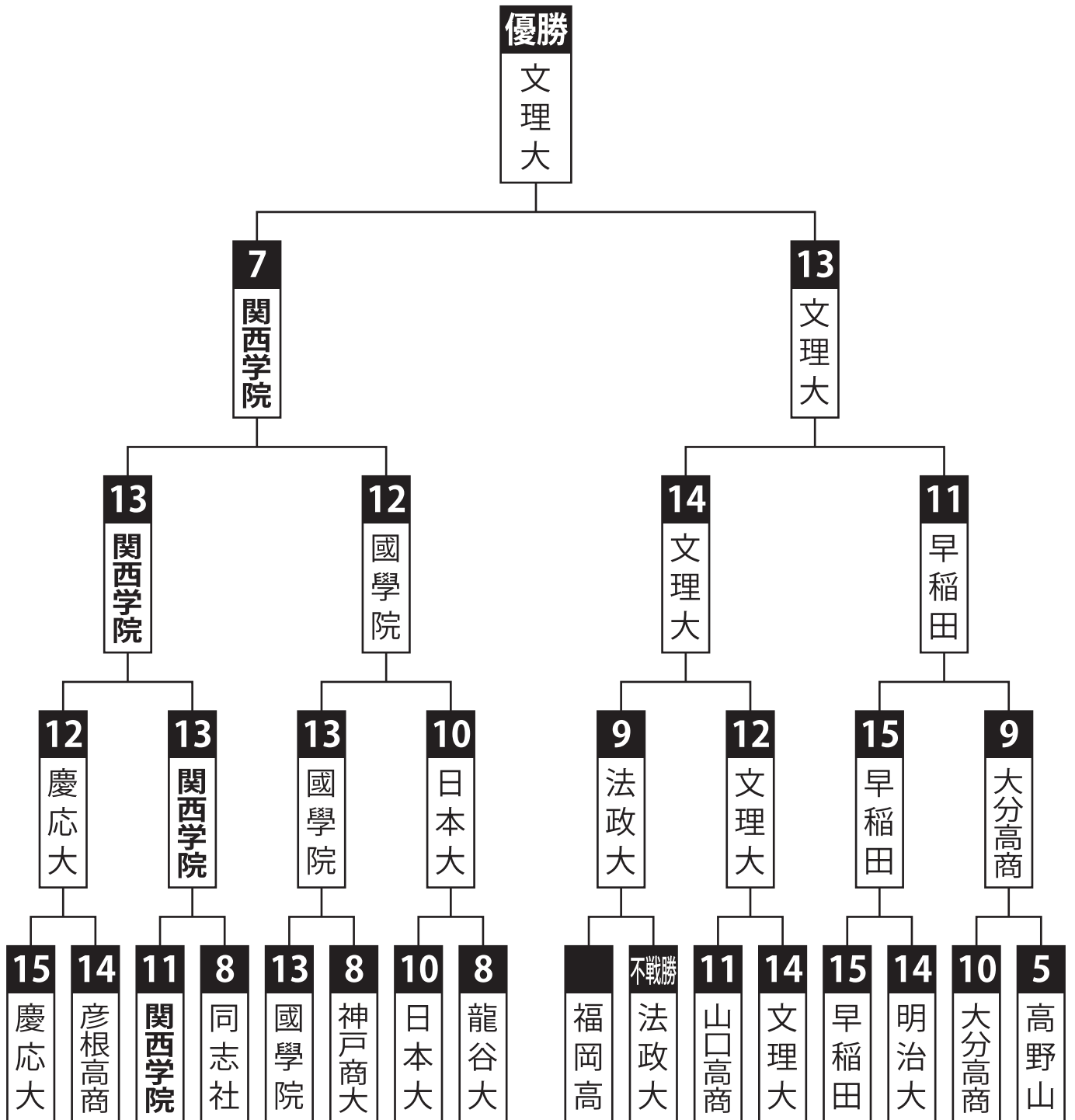
同志社大學
大谷大學
帝國大學

道場

主催 日本学生弓道聯盟

当時の弓道部と小澤兄弟の活躍

第2回日本学生選手権大会〈決勝の部〉



第 2 回日本学生選手権大会〈説明資料〉

・大会日程 昭和7年7月21日～23日

第1日 代表者会議

第2日 第1次予選（於 同志社大学、大谷大学⇒立命館大学に変更か？）

第3日 開会式

試 合 第2次予選ヨリ 決勝マデ 於 京都帝国大学

閉会式 文部大臣杯授与

・大会役員名簿

審判顧問 小澤 濱

審 判 員 小澤 陽

・出場校代表者氏名 関西学院…服部 實(昭和8年卒 高商) 他24校

- ・選手一覧 関西学院…古塚 緩、碓山 實(昭和8年卒 高商)、山口 恭正(昭和9年卒 高商)、中川 正純(昭和9年卒 高商)、大江 茂治(昭和10年卒 旧制文学部英文学科、昭和12年卒 旧制法文学部)、竹下 英一(昭和9年卒 高商)、辻谷 善逸(昭和10年卒 高商)

・試合結果 予選の部 予選通過校 16校

東京文理大15中、国学院大13中、同志社大11中、日 本 大11中、龍 谷 大10中、大谷高商 9 中、山口高商 9 中、高 野 山 大 8 中、福 岡 高10中、**関西学院11中**、明 治 大13中、法 政 大16中、早 稲 田 大10中、彦根高商13中、神戸商大10中、慶應義塾大10中

決勝の部

1 回戦 **関西学院11中** — 8 中 同志社大学

2 回戦 **関西学院13中** — 12中 慶應義塾大学

準決勝 **関西学院13中** — 12中 国学院大学

決 勝 **関西学院 7 中** — 13中 東京文理大学 **関西学院は準優勝**

※試合結果等：公式記録ではありません。

*弓道部の「創部100周年記念誌」では、25ページに「決勝戦で関東の大学（日本大学か？）に惜しくも敗れ、準優勝となった」と書かれているが、優勝校は東京文理大学

小澤先生とご家族の写真①



撮影日時：小澤 猛(長男)の挙式時の写真…1931(昭和6)年～1932(昭和7)年頃

撮影場所：関西学院内の教会と思われる

前列 左から小澤四郎(四男)、ひで(長女)、ゑい(先生の奥様)、1人置いて小澤猛(長男)

2列目 左から2番目 小澤先生 2人置いて 柳原正義 関西学院教会第5代牧師

最後列 左から2番目 ベーツ第4代関西学院院長(バックの額の左端)



ベーツ, C.J.L. 〈Bates, Cornelius John Lighthall〉 1877.5.26～1963.12.23

第4代院長(※)、カナダ・メソヂスト教会宣教師。カナダ・オンタリオ州に生まれる。1901年、クィーンズ大学卒業。のちトロント大学、イエール大学、モントリオール大学に学び、18年、モントリオールのウエスレアン神学校から神学博士号を受ける。02年、東洋伝道への献身を決意して来日。主として東京と甲府の教会における宣教活動に従事した。

1910年、カナダ・メソヂスト教会が関西学院の共同経営に参加すると同時に、関西学院に赴任。12年、新設の高等学部長となり、さらに3年後には文科長を兼務。20年に関西学院第4代院長に就任する。すでに高等学部長の時に、「私たちがマスターになろうとする目的は、自分個人を富ますことなく、社会に奉仕することにあります」という“*Our College Motto*”として提唱した“*Mastery for Service*”が、院長就任とともに、学院全体のスクール・モットーとなる。院長として、20年間にわたり関西学院発展のために尽力し、学院の礎を築いた。その間、本郷の中央会堂で知り合っていたキリスト教の学者、小山東助、佐藤清、河上丈太郎、新明正道らを招いて関西学院の学問的レベル向上に務める。また学院の悲願であった大学昇格に際しては、渡米して連合教育委員会およびアメリカ・カナダ両国伝道局の承諾を得、32年に大学開設を果たした。34年には初代学長を兼務。太平洋戦争直前の40年に院長、学長を辞任し、“*Keep this holy fire burning*”という言葉を残して帰国。59年には関西学院大学より名誉博士号が贈られる。トロントで病没した。

(※)院長在任期間：1920年(大正9年)10月～1931年(昭和6年)9月 出典：関西学院事典(2014年9月28日発行)

小澤先生とご家族の写真②



撮影日時：1941(昭和16)年前後で小澤先生が70歳頃の写真と思われる

撮影場所：兵庫県西宮市甲東園の自宅

写真左から 小澤先生、奥様 糸い、長女 ひで、孫 清

小澤先生とご家族の写真③



撮影日時：写真②と同じ頃と思われる 場所は自宅
写真左から 奥様 糸い、長女ひで、孫 清、小澤先生

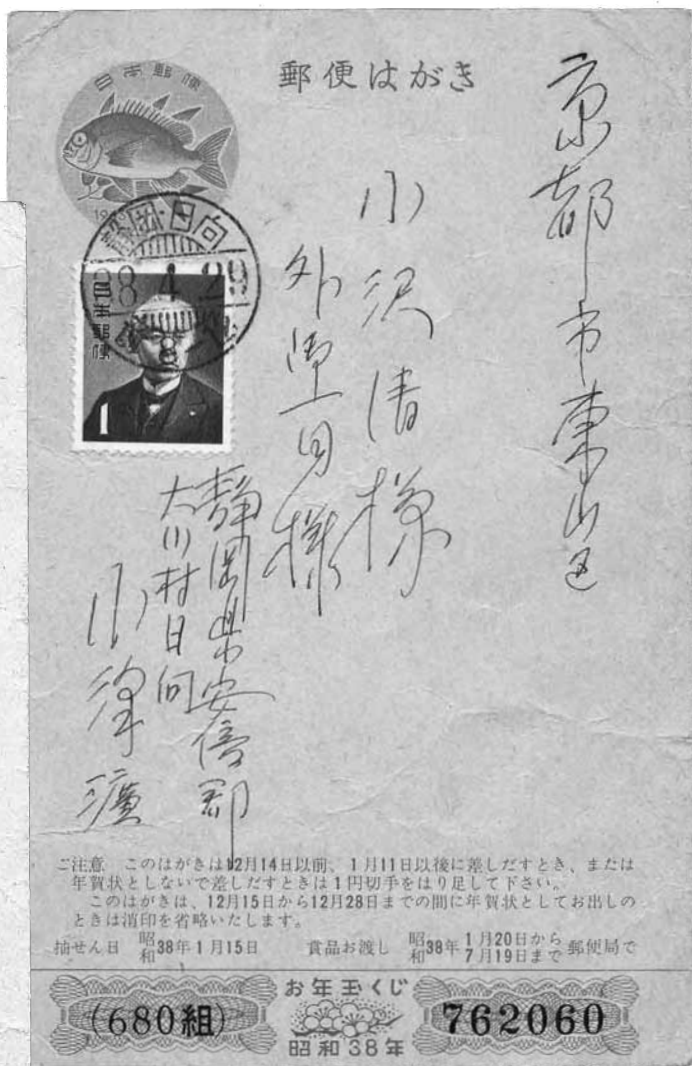
小澤先生とご家族の写真④



撮影日時・場所は不明 小澤先生

はがき

前略 過日はお懇切なる御回答戴き、御厚意を感謝いたします。五月二日午前六時四十九分静岡駅発名古屋急で名古屋まで乗換京都二条城前国際ホテル地階全日本弓道連盟審判会議へ午後二時十分出席の予定で準備してこの日午前九時十分頃帰りました。五月三日は九時十分三十三宮堂特設射場審判員として出席、四五両日は御所皇宮警察の弓道場で審判を勤め六日神戸に行き当分阪神弓関学生他、指導に赴き、五月中旬頃帰りたいと思っております。然し天候や道路の故障含他、突発的事故もあり得る事ですから全く予定であるものと御承知置き下さる様甚だ迷惑と存じますが何卒よろしくお願いいたします。



郵便はがき (表面)

昭和38年4月29日 消印

〈宛て先〉京都市東山区

(以下個人情報もあり省略)

小沢 清様 外御一同様

(※清：小澤猛の長男)

〈差出人〉静岡県安倍郡大川町

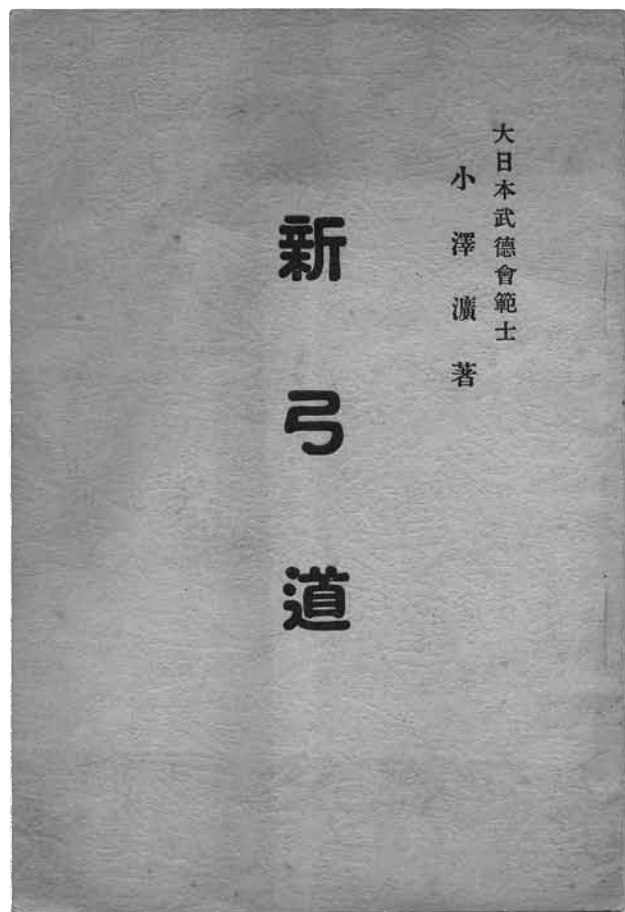
日向

小澤 瀧

郵便はがき (裏面)

前略 過日はご懇切なる御回答戴き、御厚意を感謝いたします。五月二日午前六時四十九分静岡駅発名古屋急で名古屋まで乗換京都二条城前国際ホテル地階全日本弓道連盟審判会議へ午後二時十分出席の予定で準備してこの日午前九時十分頃帰りました。五月三日は九時十分三十三宮堂特設射場審判員として出席、四五両日は御所皇宮警察の弓道場で審判を勤め六日神戸に行き当分阪神弓関学生他、指導に赴き、五月中旬頃帰りたいと思っております。然し天候や道路の故障含他、突発的事故もあり得る事ですから全く予定であるものと御承知置き下さる様甚だ迷惑と存じますが何卒よろしくお願いいたします。

著書「新弓道」表紙と序章



序

日本の弓は何千年の昔からあつたものか分らないけれども各地から矢の根石などが發見せらるゝのを見ても石器時代からあつた事は想像が出來得るのである。けれども其記録としては皇祖天照大御神の時代から引續き今日に至つたのであるが其利用は勿論時代に依つて異なり現代の弓は狩獵や戰具として用いるものでないことは申すまでもなく吾々は弓に依つて日本國民として教訓を得ようとして居るのであるから其射法もそれに適應したものでなければならぬ即ち昔の弓から明治、大正、昭和の弓と時代に依り變つて行くのが當然の事と思ふのである今回大日本武徳會に於ても射法統一の必要を認め弓道要則を發表せられたのは時代の要求である本書は其解釋を試みたものであるが勿論不變のものではない。

昭和九年十二月

著者 識



ANNIVERSARY 100th